

---

# ギア・サバイバル

双葉卓矢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ギア・サバイバル

### 【Nコード】

N0794S

### 【作者名】

双葉卓矢

### 【あらすじ】

この世には、12大大陸で形成されている地球が存在する。

その内5大大陸は、極悪非道のギア使い達が住む、言わば危険区域と化していた。

7大陸のギア使い達は、極悪ギア使い達の奇襲に備え、毎日己の力を磨いている。

7大陸のひとつである日本は、早くこの争いに終止符をつけるべく、10年前に全国各地にギア使いや戦闘員専用の高校を造り、現在でも優秀な人材を育成している。

主人公の久住雄平は、ギア・戦闘専門高校のひとつである鳳凰学園に入学する。

鳳凰学園のルールで、入学テスト時にギアを使える生徒はく優秀クラスへの1組、2組に決まるのだが、雄平はギアを使えるにも関わらず5組に決まってしまい――

雄平と仲間達が、努力と友情でさまざまな試練を乗り越え成長していく学園ファンタジー。

## エピソード（前書き）

この物語はフィクションです。

ちなみに、12大陸は日本語共通の設定です。

## エピソード

俺は、小さい頃からギア使いに憧れていた。

ギアっていうのは、世界人口の約分5の1の割合の人間にしか目覚めない、特殊な能力のこと。

まあ、簡単に言えば、超能力みたいなもの。

俺は、ギア（それ）を駆使して悪いギア使いと戦う「正義のヒーロー」の姿を、いろんな媒体を通して観ていたんだ。

子供の頃も。15才の今も。

そして、いつからかこんな夢を抱くようになってたんだ。

「俺も、ヒーロー（ギア使い）になりたい」って。

その夢を叶えるために俺は、鳳凰学園に入学することを決心したんだ。

## エピソード（後書き）

新作です!!

長く連載するつもりなので、どうぞよろしくお願いします^^

## 第1話 昔々

地球。ちきゅう

それは、この世界の最大規模であるベースだ。

今から約1万年前に宇宙の塵が集中してできたという説を、数々の科学者が説明している。

では、人類の誕生は何時いつなのか？

昔、地球には海洋で分けられた大陸があつた。

後に、言語を通して称される「12大大陸」のことである。やがて全大陸に、海が生み出した生物が住むようになった。

これが人類の始まりだったのでだろう。

人類は知能を身につけ、言語を解すようになり、約1000年でいろいろな決まりが人類の中で確立していった。

これが、現在の法律である。

1005年、科学が発達し、産業革命も成し遂げ、世界は一気に豊かになった。

そんな中、12大大陸の内の2つであるクロード大陸とガラナ大陸に、奇妙な噂が流れ出した。

それは、「人間離れた奇妙な力を使う者が現れた」というもの。奇妙な力。

科学でも証明できないその力は、やがて、使える人間が増加し、全世界で公になった。

そこで科学者は、その奇妙な力をもつ人間にこう質問した。

「どうやって使えるようになったのですか？」

その質問に対し、力をもつ者達は皆、口を揃えてこう言う。

「自然に使えるようになっていた」と。

その力は、最初に発見した人間の能力の種類が歯車系だったことから、科学者は「ギア」と命名した。

ギアを有効活用することで、人々の生活はさらに便利に、そして豊かになった。

ところが、ある日に事件が起きる。

12大大陸で、最も他大陸との貿易に非協力的だったギアル大陸が、4つの他大陸と組み、7つの他大陸を制圧しようとギアを殺人兵器として行使してしまったのだ。

その出来事が今までの友好関係に亀裂を生み、世界大戦が開戦。

戦いには2つの派閥ができた。

1つは、世界の平和が第一の思想とする、ジャパン（現在でいう日本）、クロード、エルダス、キングダムS、リダンセン、ユーロ、ラベリオラの7大大陸。

もう1つは、世界全体を支配しようとする、ガラナ、ギアル、ステルスゼルク、バン、フェスターの5大大陸。

戦争は激化していき、戦力も底をつこうとしていた。

そんな時、ある勇者が現れ、2つの派閥を仲介し、不利益な戦争に終焉をもたらそうと試みた。

ここまで大規模な大戦が、そんなことで治まる気配は無に等しい。誰もがそう思っていた。

しかし、勇者は諦める欠片も見せず、両派閥に説得を続ける。

そして、説得を始めてから3カ月たった日、両派閥は勇者の気持ちに折れ、結果、戦争は引き分けという形で終戦を迎えた。

さらに、「15年間は世界大戦級の戦争を起こさない」という条件も付く。

約8ヶ月に亘る戦争も終わり、人々の生活にまた平和が訪れた。

戦争後、貧しい大陸だったエルダスは、経済の立て直しに成功した。

このこともあり、戦争を終わらせた勇者は、エルダスの人々に神として崇められた。

## 第2話 続・昔々

世界には平和が訪れた。しかし、5大陸と7大陸の対立は、深刻化していく一方であった。

なぜなら、仲介を行った勇者が戦争の1年後に他界したからである。

条件の破棄にはならなかったものの、仲介者がいないままでは口論で仲良くという訳にはいかず、5大陸が何時いつアクシデントを起こしてくるか危険な状態にある。

そんな状況の中、7大陸の1つである日本大陸では、ある政策が進んでいた。

それは、ギア使いの職業化である。

ギア使いは生活の分野でも著しい活躍をみせ、戦闘の分野でも悪いギア使いからの襲撃をいつでも防げるように、毎日準備をしている。

日本のギア使い職業化の目的は、「自らギア使いになりたい」という信念と覚悟と志をもった人材を育成して、5大陸との争いに終止符を打つこと。

こうして、日本の高等学校は新しく64校のギア・戦闘系養成施設を建造した。

すると、ギア・戦闘分野は9年間にして2万人の優秀ギア使いを輩出し、職業化は大成功。

特に今年の新入生には、例年と比較してもっともレベルの高いギアをもつ生徒が多数集結した。

ギアには質があり、Sが最高、Iが最低と生まれ持った時点でギアのランクが決定されるのだが、今年はSの1つ下の階級であるAランクが全国で10人も養成校に入学するという前代未聞の『奇

跡』が起こったのである。

後にこの世代は「2015世代」と呼ばれ、世界に大きな旋風を巻き起こすことになるが、現時点ではそんなことは誰も予想できなかった。

## 第2話 続・昔々(後書き)

次回から主人公主体のストーリーを投稿します。

### 第3話 ギアが使えない男

4月7日

2日前から満開だった八重桜が際立つ校庭は、快く清新の春を迎えた。

今日は、私立鳳凰学園の入学式。

この高校の特徴は、高校自体の存在だ。

鳳凰学園は、突出した存在意義がある。

それは、一般の高等学校とは根本的な相違だ。

普通、高等学校とは、職業選択や大学進学、部活動の充実などを目的とし成り立っている。

しかし、10年前一斉に建造された全国の64つの高校は、部活動や勉強は第一に考えてはいない理由があった。

ただひとつ、平和のためである。

ギアという超能力まがいの才能ちからを行使し、悪巧みをする悪人の阻止。

これを主活動とするギア使い（一定の人間のみ使用可能な力）や戦闘員（簡単に言くと警察の肉体派）、戦闘用医師（戦場に回復や手当てを務める医師）などを育成するための高校として、多くの生徒を順調に優秀なプロに仕立て上げた。

今年もギア・戦闘専門の高等学校は人気を獲得。

さらに今年は、準最上位であるAAランクのギアを持つ新入生が全国計で9人も現れる結果となった。

当の、ギア使いの名門として有名な私立仙道高校は、2人のAAランク生徒が入学ということで、勢力が大幅に拡大するだろうと予想されている。

その中、正反対の結果だったのが鳳凰学園だ。

新入生の最高ランクはA1人という乏しい補強となった。

その鳳凰学園が今日、入学式を行う。

式次第が始まって1時間を経過し、校長先生の話が始まった。生徒たちは勿論、1時間も集中力を継続できる訳も無く、何人かは退屈との戦いをしていた。

そんな中、特に苛々していた生徒が、新1年生の4組に存在した。|||||ちくしょおう!!話長いんだよ。親じゃねえんだから。|||||もつと楽しくできねえモンかよ。

身長は180超えているか位の男子生徒だ。

男の名は、反田司。はんだつかさ

|||||早く終わんねーかな。

反田は短気で、自分に関係ない話を聞くのは特に嫌いである。

しかし、この性格によると、校長の話は生徒対象だから彼には関係があるんじゃないか?と疑問を抱くのが普通であろう。

だが、違うのだ。

「ギアの話なんてどーでもいいから、早く終われよ。ギア使えない奴に対しての皮肉じゃんか」

今、彼が呟いた言葉は事実<sup>に</sup>直結する。

つまり、反田司はギアが使えないのだ。

4組になったことにも関係がある。3組〜6組は、『入学時点でギアが使えなかった生徒が選ばれるクラス』という、鳳凰学園独自のルールがある。

プロ野球で例えれば、育成選手扱いと考えればよい。

司が4組であることの証明。

それは「ギアが使えない」の一点にある。

しかし、このことが逆に反田司の運命を大きく変えることになる。

第3話 ギアが使えない男（後書き）

長くなってすみません

高校の準備でいろいろありました

## 第4話 漆黒の気体を纏う生徒

入学式は、新入生代表の答辞を終え、閉幕。

鳳凰学園 1棟 3階の廊下

新入生は担任の教師に誘導され、各自の教室に向かっていた。

そんな中、先ほどの入学式で退屈をもてあまし怒りすら覚えた大男は、態度が一変。さまざまな生徒に話しかけ、高校生活の最初の試練である「友達作り」を難なくこなしていた。

「よう、君何組?」「奇遇だな、おれも4組さ」「先行教科は?」

「ギア? いいいい。俺、才能ないからさ」「あはは、そうそう! じやあまたあとで」

「君何組?」「俺の名前は司。」「気軽に声かけてくれ!」  
実に饒舌である。

司と名乗った高身長生徒は、見ての通り相手と話すのが得意で、明るく好奇心旺盛な人格。

故に友達が多く、誰とでもコミュニケーションをとれる。  
が、短気。

しかし、弱点もあるというところは、実に人間らしい人間である。

5分くらい時間がたつと、新入生たちは自分の教室に戻りだした。  
そして、各教室でHRが始まった。

「初めまして。この4組の担任を受け持つことになった、沖田とい  
います。皆さんどうもよろしく願います」

しばらく話が續くと、沖田と名乗った担任がこの高校の最重要事  
項である『クラス対抗バトル』の話始めた。

「皆さんも知っているとありますが、ギア・戦闘分野専攻の高校では、

戦い方の基本や知識の成長を促進するため、『クラス対抗バトル』  
を行えます」

「『クラス対抗バトル』とは、ギアの行使を自由にし簡単に言うと  
相手を降服させた方が勝ちの戦闘形式の年中行事であり、本人の今  
後のための経験積みを目的とされます」

「この学校も例外なく、何時でも行えるように準備されていますの  
で、行いたい場合はチームを結成して申し出るという形になります」  
「勝利した方のチームにはポイントがもらえ、勿論ポイントで待遇  
が変わったり自分にとってプラスに働くと思いますので、『バトル』  
は是非何回かは行ってください」

そのとき、どこかのクラスから拍手が聞こえた。

生徒たちは、この拍手の正体はおそらく1組か2組だろうと予測  
した。

なぜなら、ギアを使って、ギア使いを本格的に目指している生徒  
が多くいるからである。

ギアを使える場合、このバトルで優位に戦えるのは誰でも理解で  
きるだろう。

各クラスの担任の話は同時進行。

つまり、自分たちは他の組を踏み台にして成長できるという「喜  
び」と「余裕」を、拍手という形で表現したのだ。

すると、4組で1人の男子生徒が教師の話中にもかかわらず、勢  
いよく立ち上がり一言言う。

「今の拍手が悔しかった奴、俺とチームを組まないか」

「.....」

教師と生徒は沈黙し、数秒後爆笑が4組を包んだ。

「こいつ馬鹿じゃねえの」「うける!!」「あははははは!!」「頭  
おかしいよこいつ!」「別に悔しくねえし」

みんなの反応に、立ち上がった男子生徒は赤面。そして付け加え  
に一言。

「俺は本気で言ってるんだ!!」

笑いは止まず、その中1人の高身長生徒が立ち上がり、赤面の男子生徒の横まで歩き首に自分の左腕を組み嘲笑混じりに話をする。

「分かった分かった。お前の渾身のギャグは分かったから！とりあえず座れよ」

そんな高身長生徒の左腕を右手で払い、教卓の前に立つ。

「そんなにバカにするならわかった。皆にみせてやるよ！俺の本気を！！」

そう言い放つと、体に気を集中させ始めた。

すると、誰もが驚愕する光景を4組の生徒たちと教師は目にした。それを獣と遭遇したような目で見ていた高身長生徒は、愕おどろき交じりに叫ぶ。

「なんでギア今使えるやつが4組にいんだよ！！」

彼の目先には、さっきまで爆笑を巻き起こした生徒がいた。

しかし爆笑はさっきまでの話で、今は教室全体に驚愕をもたらしている。

体から0.1M先に、自分を中心とする円状の地面から上へとゆらゆら蠢うごめく漆黒の気を発生させていた生徒の姿があった。

「これをいい機会に自己紹介するとするか。1年4組出席番号8番、久住雄平。夢はプロのギア使いだ。よろしく」

久住雄平と名乗った男子生徒は、黒い気を纏ったまま深々（ふかぶか）と頭を下げた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0794s/>

---

ギア・サバイバル

2011年4月17日11時55分発行